火の用心と防災訓練のありがたみ

西目中学校　齋藤　玲奈

「火の用心、マッチ一本、火事のもと」

私の町内には、小学生が家々をまわって火の用心を呼びかけるという活動があります。

西目町でこの活動をしているのは私が住んでいる潟保地区だけなので、とても誇らしく思っています。中学生になり、私は火の用心をすることが少なくなりましたが、小学生の大きな声や拍子木の音を聞いて、懐かしい気持ちや呼びかけてくれてありがとうと感謝の気持ちがあふれてきます。火の用心のおかげか、私はこの町内で火事を見たことはありません。

潟保地区はこの「火の用心、マッチ一本、火事のもと」という言葉に守られているのだなと思いました。

私の学校でも防災教室がありました。火事が起きたときの逃げ方や消火器を実際に使ってみる体験をしました。実際にやってみることで火事が起こったときのシミュレーション

ができ、冷静に対処をすることができます。

消火器を使い終わった後、消防士の方が

「火を消すことよりもその場から逃げることを優先しましょう。ですから、あくまで消火器は火災から逃げるための道具として扱ってください。」

とおっしゃっていました。私は消防士の方の消火器は火災から逃げるための道具という言葉に強く共感しました。消火器の本来の使い方や目的をこの言葉から考えることができました。

最後に、もし火事が起こったら、誰かが自分が火事で傷ついてしまったら、私はどのような行動をとるのでしょうか。そのときにならないとわからないことです。でも、その場で冷静な対応や思いやりを持った行動ができるような人になりたいと思います。

20 × 20